

一年の“締め”へ熱気

感謝込めて道場磨く



雑巾がけ大会で張り切ってスタートする子ども＝可児市大森奥洞、漱玉館

可児市の漱玉館、親子ら協力

公益財団法人伊藤青少年育成奨学会(田代久美子理事長)の武道場「漱玉館」(可児市大森奥洞)で23日、すす払いが行われた。剣道の稽古で道場を利用する多治見市のスポーツ少年団など7団体の園児や小学生、指導者、保護者ら122人が参加し、道場の内外を美化した。子どもらによる雑巾がけ大会もあった。

すす払いは、道場への1年間の感謝の気持ちを込めて汚れを落とし、新年を迎えようと奨学会が実施し、2回目。雪の舞う寒さの中、参加者は床や柱を磨いたり、軒下のクモの巣を除去したり、庭の落ち葉を拾ったりした。奨学会理事の田代正美バローホールディングス会長兼CEOが「一生懸命、掃除いただいた。来年に向けて非常に意味があること」とねぎらった。

雑巾がけ大会には子ども65人が参加。4〜8人のグループごとにスタートし、はだしで床を踏みしめて猛ダッシュした。参加賞として菓子の袋詰めと武道の守りを受け取った。共栄剣道少年団の5年渡邊祐太郎

君(11)は「漱玉館の日本らしい雰囲気が好き。皆が心地よく使えるよう、トイレをきれいにしました」と話した。(小森直人)